

SR-M20AC1 変更内容一覧

□機能追加

No.	項目	内容
1	IEEE802.11n規格に準拠	IEEE802.11n規格に準拠しました。従来の無線LAN規格と比較して有線LAN(100BASE-TX)と変わらない高速なデータ通信が可能です。

□修正内容

No.	影響範囲	内容
1	V01.01	本装置がDHCPクライアントとして動作する環境において、サーバからのDHCP-ACKメッセージを受信するとGratuitous ARPを2度送信する。
2	V01.01	本装置がDHCPクライアントとして動作する環境において、電源投入時の時刻情報自動設定が正常に動作しないことがある。
3	V01.01	有線(Ethernet)ポートがリンクダウン状態で定義反映を実施すると、lanインタフェースが利用可能状態(RUNNING)にならない。
4	V01.01	lan設定にて、装置内に未設定のvlan設定情報をbind設定していると、装置内で資源解放漏れが発生することがある。
5	V01.01	wlanを閉塞し、wlanの定義変更を実施すると wlanとして不要なlinkUp/linkDownトラップが通知される。
6	V01.01	lanインタフェースの link up/downに関するシステムログ(syslog)およびトラップを有効にする。
7	V01.01	lanインタフェースの interfaceMIB::OperStatus にて lowerlayer down が通知される。
8	V01.01	vlan forward設定コマンドで設定した静的テーブルが、動的学習テーブルや認証割り当てテーブルへ属性が変更される。このため、静的に登録した端末情報が削除されることがある。
9	V01.01	vlan forward 設定を削除(delete)後にcommitすると、静的テーブルだけでなく、動的学習テーブル及び認証端末テーブルも含めてMAC学習テーブルが削除されてしまう。
10	V01.01	本装置の通信モードが11bで、接続APが11b/gの場合、show wlan apの相手通信モードに"11g"と表示される。
11	V01.01	APとアソシエート済みの状態で通信モードを変更し動的定義反映すると、表示コマンドと構成定義の通信モードが不一致となる場合がある。
12	V01.01	無線LANから不正なフレームを大量に受信し続けると、装置がハングアップしたり再起動することがある。
13	V01.01	ieee80211定義を変更して動的定義反映するとシステムダウンする場合がある。
14	V01.01	通信モードが11b/gにおいて、11bのアクセスポイントと接続している場合、11gのローミング閾値をもとにローミングが動作する。
15	V01.01	lanおよびether定義がない時、装置起動しない場合がある。
16	V01.01	WPA/WPA2(-PSK)設定時に端末接続後、show wlan statusコマンド表示内の「wep send」の値が変化する。
17	V01.01	無線LAN定義を変更してcommitすると、装置がハングアップ状態になる場合がある。
18	V01.01	:無線LANアクセスポイントからチャンネル移動通知があっても、移動前のチャンネルに対して通信してしまう場合がある。
19	V01.01	アクセスポイントが通知してきたWMMのパラメータ通りにSR-M20AC1が動作しない。